

新入社員の理想の上司はお笑い・タレント型?俳優・女優型?

- 平成 24 年度新入社員意識調査 より -

要 約

- 高校卒は、ワーキングスタイルなどの面で高いモチベーションを維持していると考えられる項目が過去最高となった。
- 将来の成功要因を「運・チャンス」といった他力本願的な回答も過去最高となった。
- 「理想の上司」は、男性が「イチロー」、女性が「天海祐希」となった。
- 理想の上司が「お笑い・タレント型」は、仕事に対して非常に真面目、自らの描くサクセスストーリーは他力本願的または自己能力依存的。私生活では一人遊びを志向し孤独を好み、仲間や上司とのコミュニケーションに不安がある。理想の上司に求めるのは、つきあいやすさ。
- 理想の上司が「俳優・女優型」は、自己責任型でコミュニケーションに自信がある一方で、仕事と余暇を上手に使い分けようとする姿勢が見て取れる。理想の上司に求めるのは、強力なリーダーシップであり人間的な魅力である。

1. はじめに

今回のレポートでは「新入社員意識調査」を素材にしている。第 1 に、求人倍率の高かった平成 20 年（2008 年）と求人倍率が急落傾向にある本年平成 24 年（2012 年）の調査を比較することで、好況期と不況期の新入社員の仕事に対する意識の違いを分析する。第 2 に、新入社員の理想の上司を類型分けし、新入社員のライフスタイルや仕事に対する姿勢の傾向を分析する。

2. 調査の概要

(1) フェイス項目

	性別		最終学歴		
	男性	女性	高校	短大 専門学校	大学 大学院
回答数	194	109	56	31	211
構成比(%)	64.0	36.0	18.8	10.4	70.8

	業種					勤務先従業員数		
	製造業	卸 小売業	土木 建設業	サービス業	その他	50人以下	50人超～ 100人以下	100人超
回答数	112	55	35	59	46	75	68	159
構成比(%)	36.5	17.9	11.4	19.2	15.0	24.8	22.5	52.6

当社研修事業部では、毎年 3 月から 4 月にかけて、各企業様の新入社員研修を受託・実施し、ご参加頂いた方を対象に「新入社員意識調査」を行っている。本調査は、当社が 1995 年から継続して実施しており、新入社員を分析したレポートによって毎年の新入社員意識の移り変わりを捕らえたユニークなものとなっている。

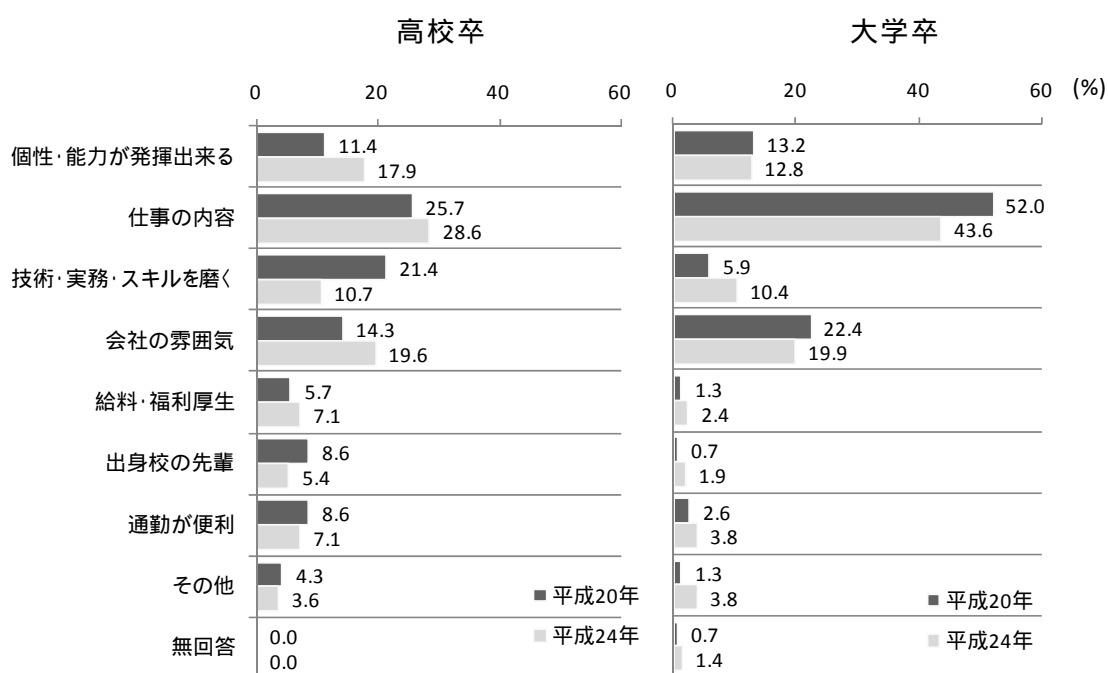
本年度のサンプル数は有効回答 316 票でありフェイス項目の要約は上の表である。記入場所は研修会場で、「会場アンケート調査方式」をとっている。

フェイス項目の特徴は、性別では男性の割合が高く（64.0%）、最終学歴では「大学（大学院を含む）」（70.8%）、業種では「製造業」（36.5%）、従業員規模では「100人超」（52.6%）の割合が高い。

フェイス項目内の比較を検討する場合、「業種」では卸小売業や土木建設業、「学歴」では短大・専門学校サンプル数が少なく、業種別や学歴別の比較では有意性のない結果が出ると推察される。そこで、学歴別の比較については、短大・専門学校を除いて比較することとした。

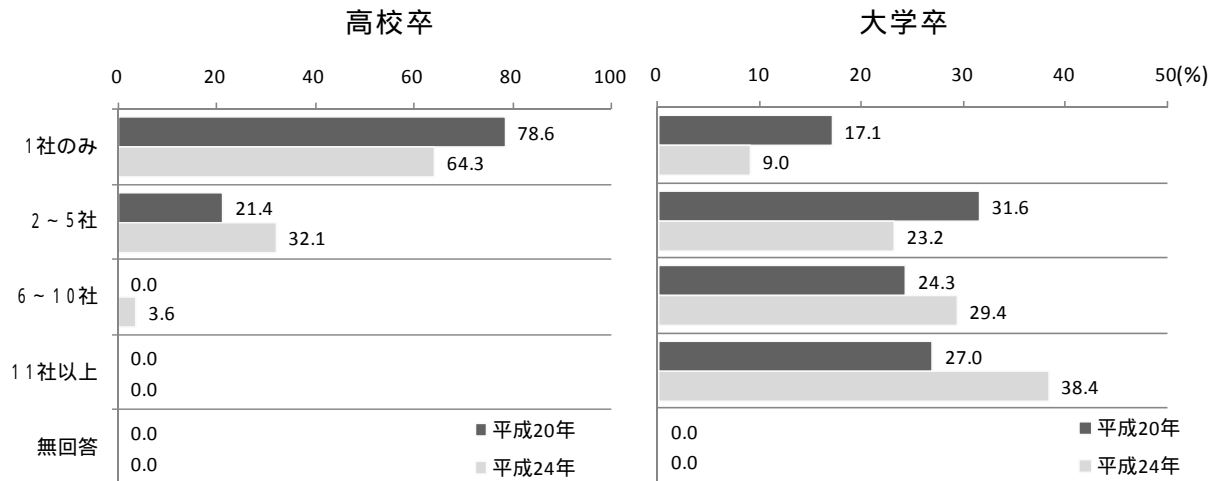
（2）単純集計

現在の会社に就職することを決めた最大の理由は何ですか？



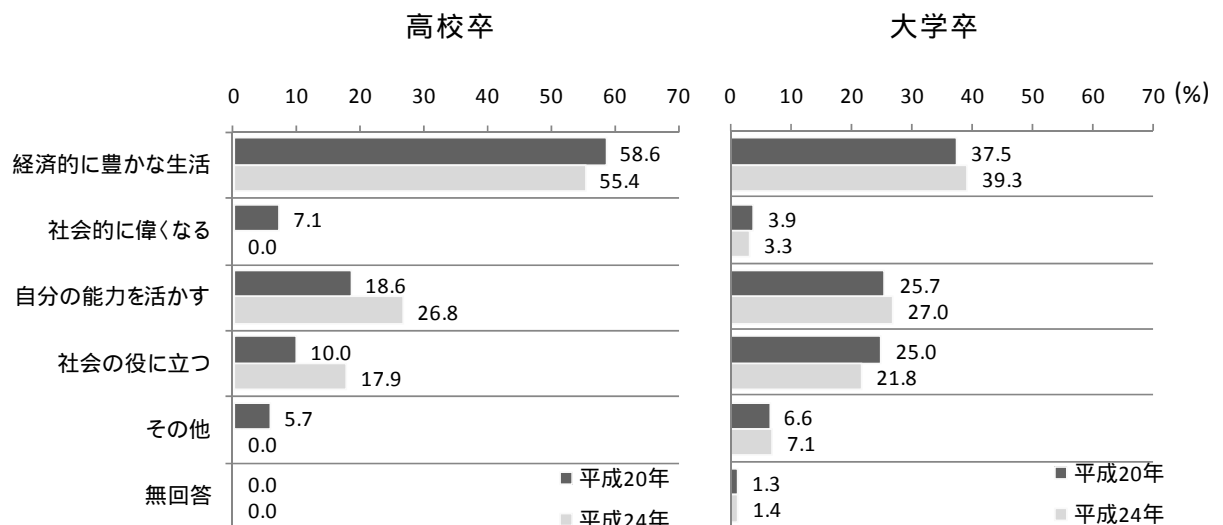
- 大学卒、高校卒ともに「仕事の内容」とする回答が圧倒的に多い。
- 平成20年と平成24年の比較を見ると、高校卒は、「仕事の内容」が2.9ポイント増加した。大学卒は、「仕事の内容」が8.4ポイント減少した。
- 比較の増減をみると高校卒では平成20年より平成24年のほうが、「大学卒型」に近づいている。

就職試験は何社くらい受けましたか？



- 高校卒は、「1社のみ」(64.3%)の回答率が圧倒的に高く、大学卒は、「11社以上」(38.4%)、「6～10社」(29.4%)の回答率が高くなっている。
- 平成20年と平成24年の比較を見ると、高校卒は、「1社のみ」が14.3ポイント減少し「2～5社」が10.7ポイント増加した。大学卒は「11社以上」が11.4ポイント増加し、「2～5社」が8.4ポイント減少した。
- 昨年ほどではないが、就職環境は依然として厳しい状況にあることが見て取れる。特に大学卒では「6社以上」が約7割であり、この状態が長期にわたるとすれば学生の本業である「勉強」に割く時間が慢性的に減少することが懸念される。就職活動が一種の「社会経験」であると捉えられなくもないが、求人をする側にとってみれば学生の「質」が一様にレベルダウンしかねない状況は皮肉な結果を招かざるを得ないだろう。

あなたにとって、働く目的は何ですか？

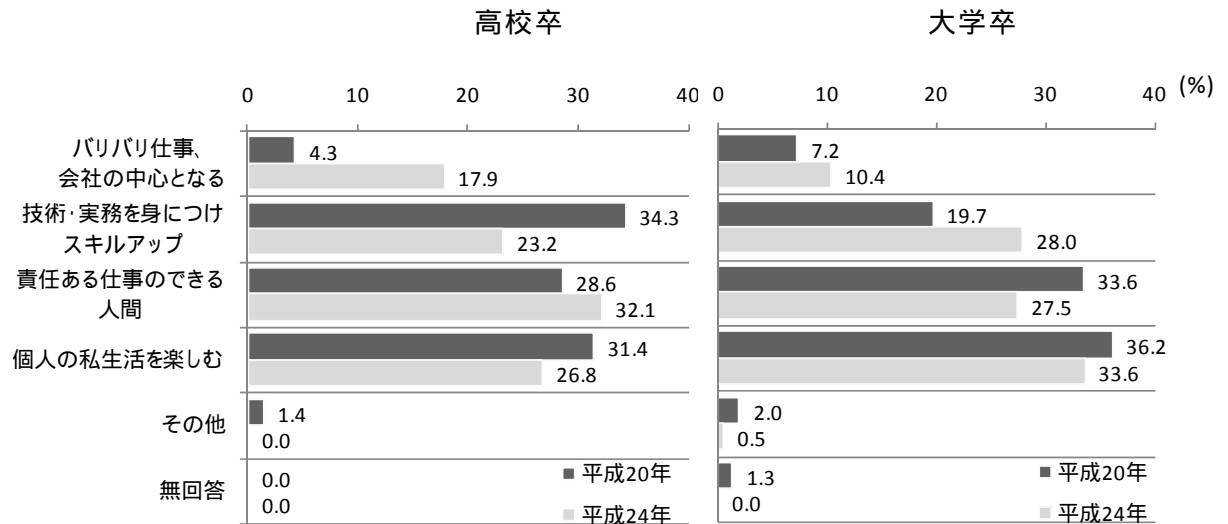


- 大学卒・高校卒ともに「経済的に豊かな生活がしたい」の回答が最も多い。
- 平成20年と平成24年の比較を見ると、高校卒では、「自分の能力を生かす」が8.2ポイント増加し、「社会の役に立つ」が7.9ポイント増加した。大学卒に大きな変化

は見られなかった。

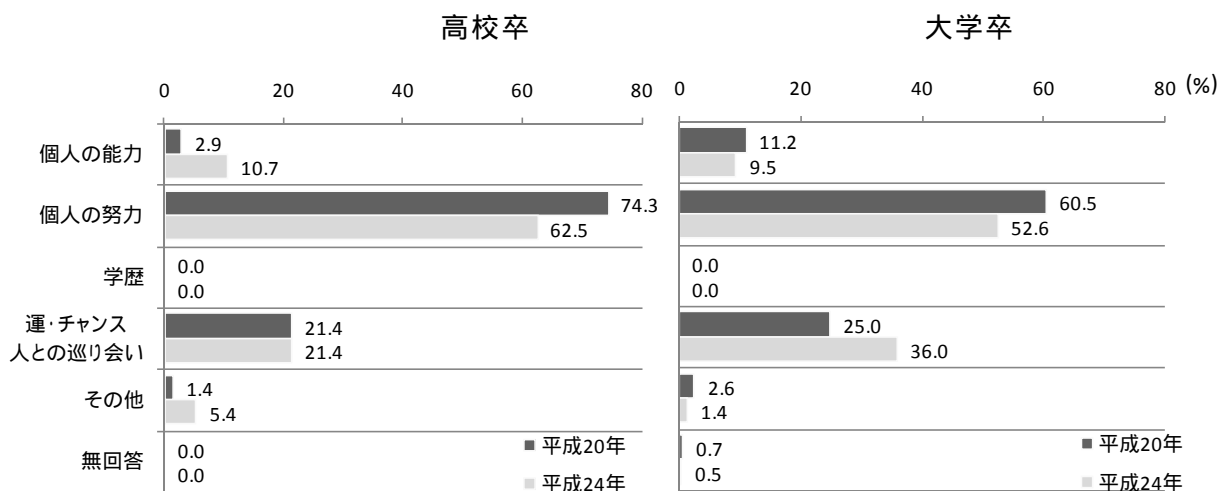
- 比較の増減をみると、高校卒では平成 20 年より平成 24 年のほうが、「大学卒型」に近づいている。

あなたは将来どんな社会人，企業人になりたいと思いますか？



- 高校卒は、「責任ある仕事のできる人間」が 32.1%で最も高く，大学卒は、「個人の私生活を楽しむ」が 33.6%で最も高くなっている。
- 平成 20 年と平成 24 年の比較を見ると，高校卒は，「バリバリ仕事，会社の中心となる」が 13.6 ポイント増加，「技術や実務を身につけ，スキルアップ」が 11.1 ポイント減少している。
- 大学卒は，「技術や実務を身につけ，スキルアップ」が 8.3 ポイント増加，「責任ある仕事のできる人間」が 6.1 ポイント減少している。
- 比較の増減をみると，高校卒で「個人の私生活を楽しむ」の回答割合が平成 20 年～平成 24 年の調査で最低となっている。

社会に出て，成功するのに最も必要なものは何だと思いますか？

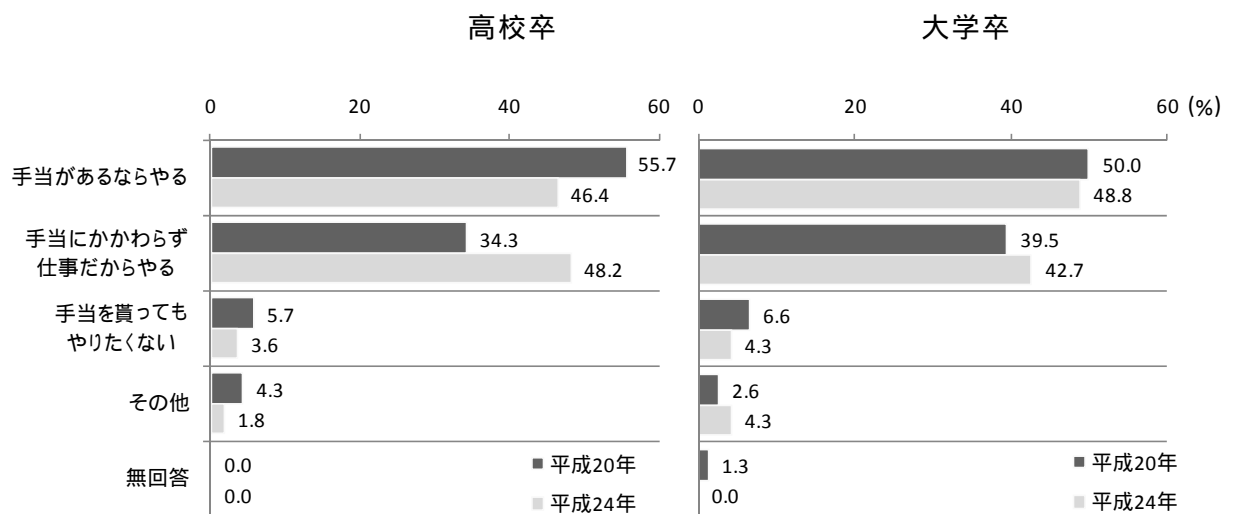


- 大学卒・高校卒ともに回答傾向は同じである。「個人の努力」の回答が最も多く，次

いで「運・チャンス，人とのめぐりあい」「個人の能力」の順となっている。

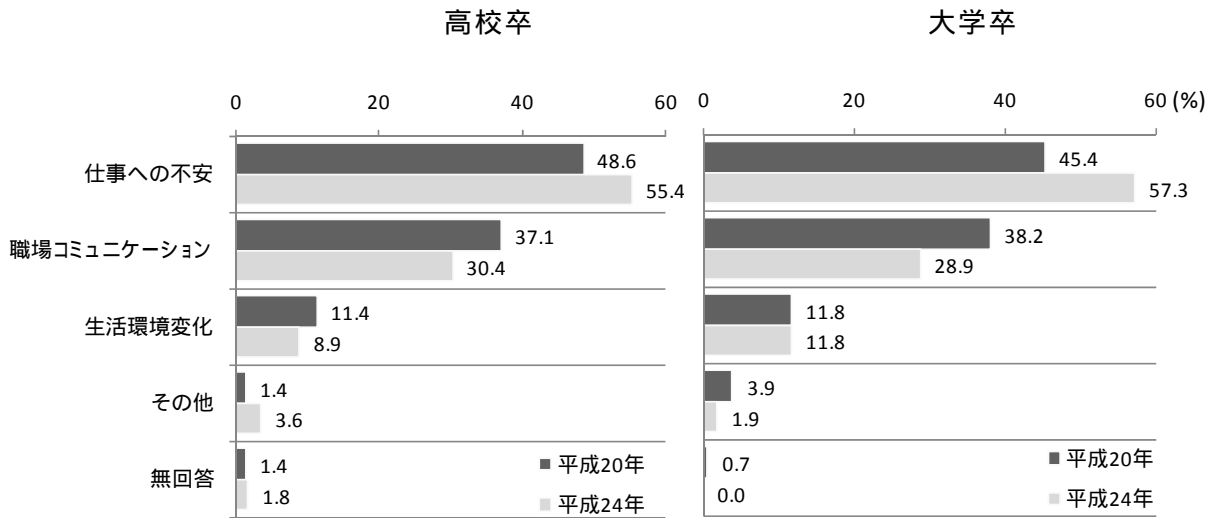
- 平成 20 年と平成 24 年の比較を見ると，高校卒は，「個人の努力」が 11.8 ポイント減少している。
- 大学卒は，「個人の努力」が 7.9 ポイント減少し，「運・チャンス，人との巡り会い」が 11 ポイント増加している。
- 比較の増減をみると，高校卒・大学卒ともに「個人の努力」の回答割合が平成 20 年～平成 24 年の調査で最低となっている。また，大学卒は「運・チャンス，人との巡り会い」の回答割合が最高となっている。

残業についてはどう思いますか？



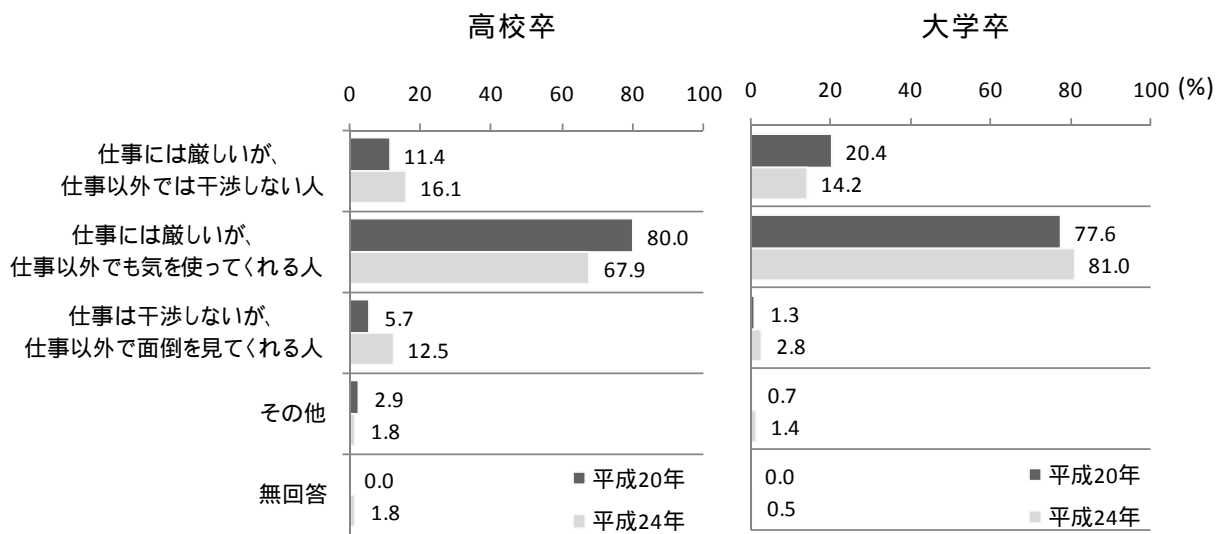
- 高校卒は，「手当にかかわらず仕事だからやる」，「手当があるならやる」の順で回答の割合が多い。大学卒は，「手当があるならやる」，「手当にかかわらず仕事だからやる」の順で回答の割合が多い。
- 平成 20 年と平成 24 年の比較を見ると，高校卒は，「手当があるならやる」が 9.3 ポイント減少し，「手当にかかわらず仕事だからやる」が 13.9 ポイント増加している。大学卒は，大きな変化は見られなかった。
- いわゆる「サービス残業」は，高校卒・大学卒ともに約半数が仕方ないと感じている。
- 比較の増減をみると，高校卒は，「手当があるならやる」の回答割合が平成 20 年～平成 24 年の調査で最低となり，「手当にかかわらず仕事だからやる」の回答割合が最高となっている。

新しい社会人生活で不安があるとすれば、それは何ですか？



- 高校卒・大学卒ともに、「仕事への不安」、「職場コミュニケーション」、「生活環境変化」の回答順となっている。
- 平成20年と平成24年の比較を見ると、高校卒は、「仕事への不安」が6.8ポイント増加し、「職場コミュニケーション」が6.7ポイント減少している。大学卒は、「仕事への不安」が11.9ポイント増加し、「職場コミュニケーション」が9.3ポイント減少している。
- 仕事に対する不安が半数を占めるが、職場での人間関係やコミュニケーションに対する不安が約3割あることから、新入社員をうまく職場環境に適應させるためには仕事の指導ばかりでなく、インフォーマルな環境でのケアも重要であることがわかる。

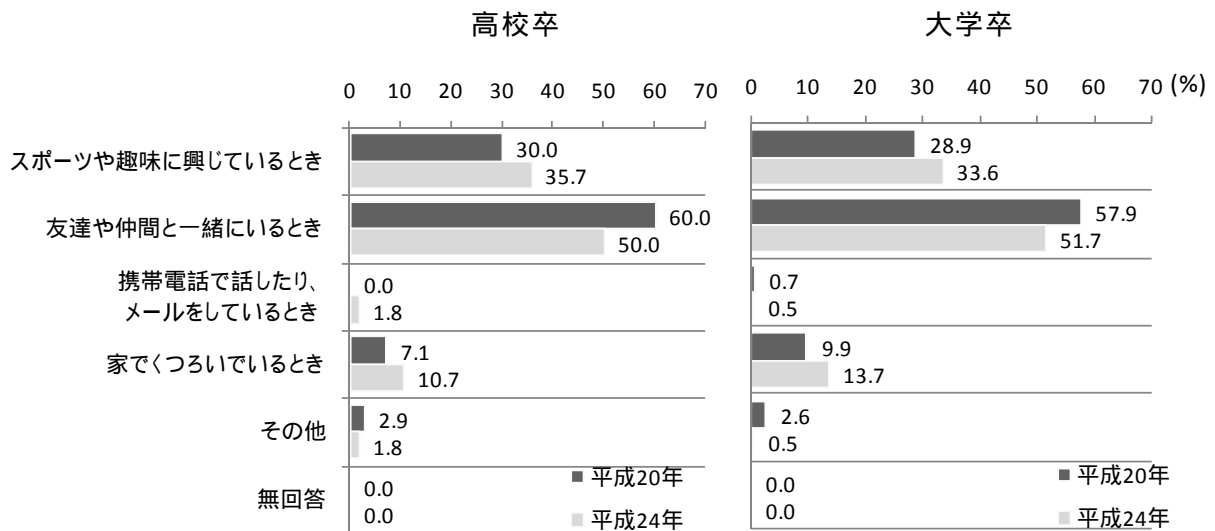
職場の上司・先輩はどのような人がいいと思いますか？



- 高校卒・大学卒ともに「仕事には厳しいが、仕事以外にでも気を使ってくれる人」の回答が圧倒的に多く、次いで「仕事には厳しいが、仕事以外では干渉しない人」「仕事は干渉しないが、仕事以外で面倒を見てくれる人」の順となった。

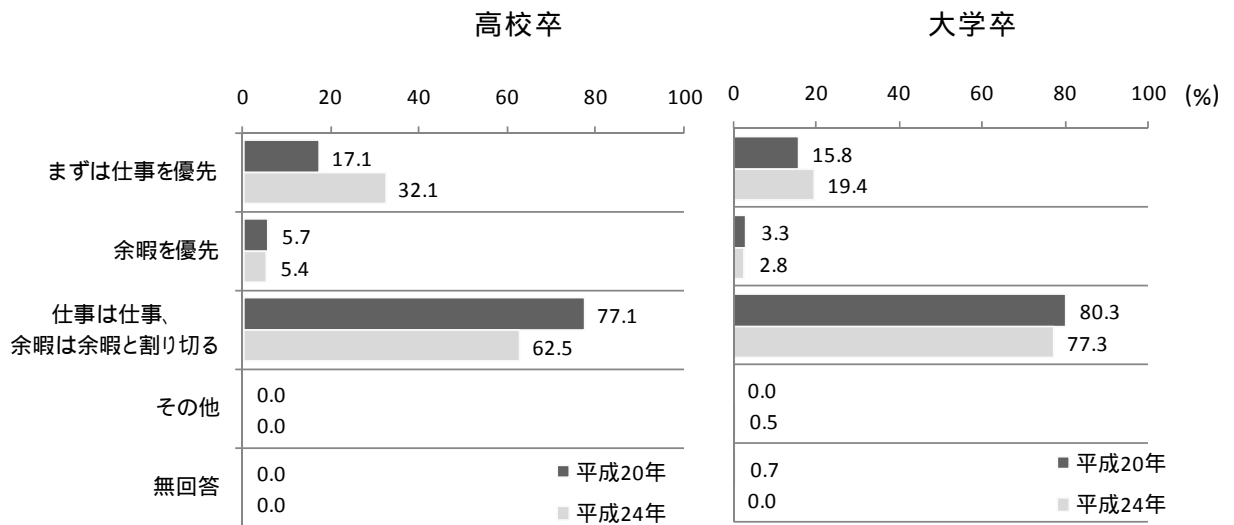
- 平成 20 年と平成 24 年の比較をみると、高校卒は、「仕事には厳しいが、仕事以外でも気を使ってくれる人」が 12.1 ポイント減少している。大学卒は、大きな変化は見られなかった。
- 上司に対してドライに対応(仕事に厳しく、プライベート非干渉)してほしい新入社員は約 1 割程度で、ドライ・ウェット(仕事に厳しく、プライベート干渉)が約 7~8 割である。
- ここでも、新入社員に対するインフォーマルな場でのケアが重要であることが確認できる。

あなたにとって一番楽しいのはどんな時ですか？



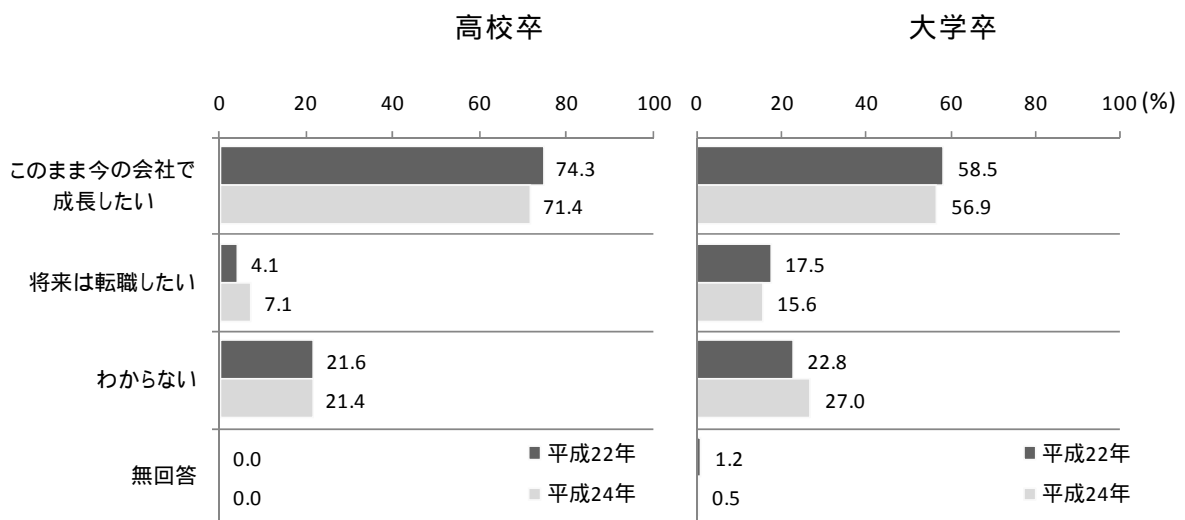
- 大学卒・高校卒ともに「友達や仲間と一緒にいるとき」の回答が最も多く、次いで「スポーツや趣味に興じているとき」「家でくつろいでいるとき」の順となった。
- 平成 20 年と平成 24 年の比較を見ると、高校卒は、「スポーツや趣味に興じているとき」が 5.7 ポイント増加し、「友達や仲間と一緒にいるとき」が 10.0 ポイント減少している。大学卒は、「スポーツや趣味に興じているとき」が 4.7 ポイント増加し、「友達や仲間と一緒にいるとき」が 6.2 ポイント減少している。
- 比較の増減をみると、高校卒は、「スポーツや趣味に興じているとき」の回答割合が平成 20 年～平成 24 年の調査で最高となり、「友達や仲間と一緒にいるとき」の回答割合が最低となっている。
- 「スポーツや趣味に興じているとき」は、自宅でパソコンやゲームを一人でしている状況も想定される。「友達や仲間と一緒にいるとき」の回答割合が減少していることも含めて、集団の中よりも孤独の中にくつろぎを感じている新入社員が増えていると推察される。

仕事と余暇（レジャー）の関係について、どう思いますか？



- 大学卒・高校卒ともに「仕事は仕事，余暇は余暇と割り切る」の回答が圧倒的に多く，次いで「まずは仕事を優先する」「余暇を優先する」の順となった。
- 平成 20 年と平成 24 年の比較を見ると，高校卒は「まずは仕事を優先する」が 15.0 ポイント増加し，「仕事は仕事，余暇は余暇と割り切る」が 14.6 ポイント減少している。大学卒は，大きな変化が見られなかった。
- 比較の増減をみると，高校卒は，「まずは仕事を優先する」の回答割合が平成 20 年～平成 24 年の調査で最高となり，「仕事は仕事，余暇は余暇と割り切る」の回答割合が最低となっている。

あなたは将来のキャリアアップをどのように考えていますか？



- 高校卒・大学卒ともに，6～7 割の新入社員が「このまま今の会社で成長したい」とし，2 割が「わからない」としている。
- 平成 22 年(本質問題は平成 22 年から設けられた)と平成 24 年の比較を見ると，高校卒・大学卒ともに大きな変化は見られなかった。

あなたにとってイメージする理想の上司とは、有名人で例えると誰ですか？

回答数 167 件

総合			男性			女性		
順位	名前	人数	順位	名前	人数	順位	名前	人数
1	天海祐希	13	1	イチロー	6	1	天海祐希	13
2	明石家さんま	8	2	明石家さんま	5	2	真矢みき	5
3	イチロー	7	3	ビートたけし	4	3	篠原涼子	4
3	所ジョージ	7	3	松本人志	4	3	所ジョージ	4
4	松本人志	6	4	みのもんた	3	4	関根勤	3
4	真矢みき	6	4	館ひろし	3	4	松嶋菜々子	3
5	ビートたけし	5	4	高田純次	3	4	明石家さんま	3
5	高田純次	5	4	所ジョージ	3	5	黒木瞳	2
6	関根勤	4	4	大塚範一	3	5	堤真一	2
6	篠原涼子	4	4	役所広司	3			
6	堤真一	4						

カテゴリー別

順位	カテゴリー	人数
1	お笑い	36
1	俳優	36
2	女優	30
3	タレント	19
4	歌手	16
5	スポーツ選手	10
6	アナウンサー	7
7	歴史	4

- 総合ランキングでは、「天海祐希」が第1位、「明石家さんま」が第2位、「イチロー」と「所ジョージ」が第3位となっている。
- 性別にみると、男性は「イチロー」が第1位、女性は「天海祐希」が第1位となっている。
- カテゴリー別にみると、「お笑い」系と「俳優」が第1位となっている。
- 男性は「お笑い」系の有名人が多く、女性は「女優」が多い傾向となっている。
- 「有名人」という言葉の受け取り方の問題はあるが、テレビなどのマスメディアの影響が圧倒的に表出しており、「歴史上の人物」を記入した人数は僅か4人であった。

3. 理想の上司による新入社員の分析

ここでは、新入社員アンケート調査結果の「理想の上司」を利用して、新入社員が抱く理想の上司像から、新入社員のライフスタイルや仕事に対する姿勢の傾向を抽出することを試みる。

(1) 理想の上司像の類型分け

まず、新入社員を理想の上司像によって類型分けをする。理想の上司像を統計的に分析可能なボリュームを確保するため次の6類型に分類した。

	人数	割合
お笑い・タレント	53	31.7
俳優・女優	69	41.3
歌手	10	6.0
アナウンサー	7	4.2
スポーツ	12	7.2
その他	16	9.6
合計	167	100.0

この類型の中で、約7割を占める「お笑い・タレント」と「俳優・女優」にフォーカスして分析を進める。ここでは、「お笑い・タレント」と「俳優・女優」を理想の上司とする新入社員をそれぞれ、「お笑い・タレント型」、「俳優・女優型」と呼称する。

さらに、分類された「お笑い・タレント型」と「俳優・女優型」の意識の違いを明確にするため、次表のカテゴリーにそれぞれの質問事項を対応させて分析した。分析手法は、決定木分析を使用し、ツリー図は煩雑となるため、ここでは省略した。

カテゴリー	質問事項
社会的背景	性別
	学歴
ライフスタイル	仕事と余暇
	一番楽しい時
ワーキングスタイル	働く目的
	なりたい社会人, 企業人
	残業
	社会で成功するのに必要なもの

「社会的背景」「ライフスタイル」「ワーキングスタイル」を、それぞれの決定木分析の結果をまとめたのが次表である。表中に「第1位」～「第3位」とあるのは、それぞれの型に結びつきが強い順位を示している。

		お笑い・タレント型	俳優・女優型
社会的背景	性別	男性	女性
	学歴	高校卒	短大・専門学校卒 大学・大学院卒
ライフスタイル	仕事と余暇	まずは仕事を優先	3位 仕事は仕事, 余暇は余暇と割り切る 余暇を優先
	一番楽しい時	1位 スポーツや趣味に興じている時 家でくつろいでいるとき	2位 友達や仲間と一緒にいるとき 携帯電話で話したり, メールをしているとき
ワーキングスタイル	働く目的	経済的に豊かな生活 自分の能力を活かす 社会に役に立つ 社会的に偉くなる	経済的に豊かな生活 社会に役に立つ 社会的に偉くなる
		技術・実務を身につけスキルアップ バリバリ仕事, 会社の中心となる 個人の生活も楽しむ 責任ある仕事の出来る人間	個人の生活も楽しむ 責任ある仕事の出来る人間
	なりたい社会人, 企業人		
	残業	3位 手当にかかわらず仕事だからやる	手当があるならやる
社会で成功するのに必要なもの	2位 運・チャンス, 人との巡り会い 個人の能力	1位 個人の努力	

「お笑い・タレント型」の特徴は、社会的背景に「男性」「高校卒」が多く、ライフスタイル

ルは、「まずは仕事を優先」し「スポーツや趣味に興じている時」「家でくつろいでいるとき」が楽しい時とし、ワーキングスタイルは、「手当にかかわらず仕事だからやる」のが残業に対するスタンス、「運・チャンス、人との巡り会い」「個人の能力」が社会で成功する要因だと考えている。

一方、「俳優・女優型」の特徴は、「女性」「短大・専門学校卒」「大学・大学院卒」が多く、ライフスタイルは、「仕事は仕事、余暇は余暇と割り切る」「余暇を優先」とし、楽しい時は「友人や仲間と一緒にいるとき」「携帯電話で話したり、メールしているとき」としている。ワーキングスタイルは、「個人の努力」が社会で成功する要因としている。

それぞれの項目について、割合が高かったのは、「お笑い・タレント型」では、「一番楽しい時」「社会で成功するのに必要なもの」「残業」で、「俳優・女優型」は、「社会で成功するのに必要なもの」「一番楽しい時」「仕事と余暇」であった。

総じて、「お笑い・タレント型」は、仕事に対して非常に真面目な姿勢を見せるものの、一方で、自らの描くサクセスストーリーは他力本願的であるか、または自己能力依存的だと考えられる。また、私生活では一人遊びを志向し孤独を好んでおり、仲間や上司とのコミュニケーションに不安がある。従って、理想の上司像は、自分を生かし能力を引き出してくれ、かつ、コミュニケーションの楽であろう「お笑い・タレント」となる。

「俳優・女優型」は、「お笑い・タレント型」よりは大人と言えるであろう。自己責任型でコミュニケーションに自信がある一方で、仕事と余暇を上手に使い分けようとする姿勢が見て取れる。理想の上司に求めるのは、強力なリーダーシップであり人間的な魅力である。

4．おわりに

今回の新入社員アンケートでは、好況期と不況期の新入社員の意識を比較した。その結果、ワーキングスタイルなどの面で、高いモチベーションを維持していると考えられる項目は過去最高となったが、不況期の厳しい就職戦線の疲れからか、将来の成功要因を「運・チャンス」といった他力本願的な回答も過去最高となった。

今回の調査結果について、皆様の業務にお役に立つ事が出来れば幸いである。

(ワイエムコンサルティング株式会社 調査研究事業部 主席研究員 田渡雅敏)